

ご注文はインフェルノラビットハウスですか？

産廃

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ごちうさに g t a 5 のカオスMODを導入したらどうなるか、という何が書いてあります。初投稿作品です。駄文です。多分黒歴史になります。キャラがエグい目に合います。(性的描写はないです)連載もほぼ無いでしょう。コメントの返信等も期待なさらない方がよろしいかと存じます。それでもいい、という心優しい方のみお読みください。

## 目次

一目で尋常でない治安の悪化だと見抜いたよ

1



「ご注文は？」店員の少女―チノは言った。

「じゃあ、そのもふもふちようだい！」ココアは無邪気にそう言った。ちなみに彼女の手にはソードオフショットガンが握られている。

「非売品で『ドガアン！』」

店員の少女は断ろうとしたが、その前にココアが撃ち殺してしまった。ああ悲しいかな。これが世界の現実。万人の万人に対する闘争である。

ココアはそのままもふもふに手を伸ばした。

「うわあ〜モフモフ気持ちい〜♪」ヒュウルルルル

そして腕の中に抱いて堪能していた。

ドオオオン！

今日はメテオがよく降るなあ。屋根突き抜けたよ。

がら空きの屋根を、アパッチロングボウが狙っていた。

バリバリバリバリバリバリッ！ガトリングが火を吹いた。

MISSION FAILED!  
ティップピーを怯えさせた

ココア「ところで、『バヒユウウン』嘉風さんの家って知らない？」

チノ「うちです」ドオオンツ・・・

ココア「凄いね！これは『ヒュウルルン』もはや運命だよ！」

チノ（勝手に運命感じられた・・・）ボオオン・・・

ところで皆さんはご存知だろうか。「運命」を英語で言うとき、様々な言い方があることを。さて、この運命は果たしてfortuneなのか、fateなのか、はたまたDOMなのか・・・

話を元に戻すと、ココアはチノに居候をするかわりに喫茶店を手伝うことを申し出、チノがココアに制服に着替えるように言った。

チノ「この部屋を使ってください。」

ウーンドガガガガガガガガガガガガガガガガガガ!

扉開けた途端、ミニガンの銃声♪

そんなのありか?!あ・り・え・な・い♪

MISSION FAILED!  
チノが死亡した

「WHO THE FUCKIN' ARE YOU?!

そうココアに怒鳴るのは紫色のツインテが特徴の美少女であった。

下着姿でミニガンを明後日の方向に撃ちまくっているのはご愛敬。

「わ、私は今日からここで働かせてもらうココアです!」

怯えながら言う、ただしソードオフは手放さない。

「そんな話聞いてないぞ!怪しい奴め!」

(この状況・・・怪しいのはどっちだろう?)

解答:どっちも。

「彼女はここのバイトのリゼさんです。先輩として色々教えてあげてください」

「きよ、教官、ということだな!」

丁度そのころ、ある所に空を気ままに漂うセダンがあったそう  
な・・・心地よい春の風にゆられて・・・

ココア「よろしくね、リゼちゃん♪」

リゼ「上司に口をきくときは、言葉の最後にサ『サーツ』  
ゴガツシヤアアン!!」

何と！新入りのココアさんの採用祝いでしょうか、空からセダンが  
プレゼントされたではありませんか！良かったね、ココアちゃん♪

MISSION FAILED!  
リゼが死亡した

「では、ココアさん、リゼさんとコーヒー豆を運んで来てください」  
チノの依頼で二人は倉庫に来ていた。

ココア「うーん、重いい・・・普通の女の子にはこれは無理だよ」  
片手にMG4を固く握りしめながら、ココアはそう言っ  
て「コーヒー豆一袋を重そうに両手で持ち上げようとしている。」

リゼ「あっ、ああ、そうだな！お、重くて持てないな！」

ココアが弱音を吐いた途端、リゼはそう言っ  
て両腕で抱えていた4袋のコーヒー豆を落  
としてしまった。

ドギヤアアアン！

ドギヤアアアン！

ドガツドギヤアアン！

手放したコーヒー豆の袋は、着地と同時に起爆した！  
さすがはミリオタ。やるねえ！リゼ！

WASTED!  
リゼに殺された

ガガガガガガガガチリンチリン♪ガガガガガガガガ

ほら、RPKを柱にブツパしているお客さんだよ、ココアちゃん。  
ちゃんと接客、出来るかな？

ココア「Hold on, we got a company.」  
偉いぞ、ココアちゃん。ちゃんと二人の助けを借りずに接客する  
という意味表示をして、M4A1 SOPMODで制圧射撃を加えつ  
お客さんの方へ。

ココア「いらっしやいませー！」タタタタタン！

お客さん「あら、新人さん？」ガガガガガガガガ

ココア「はい、今日からここでヒュウン！ヒュウン！働かせてもら  
うココアです！ご注文はタタタタン！何になさいますか？」タタタタ  
タキンツ！

お客さん「じゃあ、コーヒーのカコツブラックをカチャツジャツキ  
ン！お願いします」ガガガガガガガツ

ココア「かしこまりましたタタタタタン！」

うん、いいぞ、ココアちゃん。ちゃんとカウンターに後退しながら  
断続的に制圧射撃を加えているし、ばつちりだ！

ココア「わーい！ちゃんと注文取れt『ゴオオオオオツ』

こ、ココアちゃんのケツから炎が！

火炎は真っ直ぐお客さんの方へ・・・

ウアッ！ウアッ、ウアッ、ウアッ、アッ、アッ、アッ！

MISSION FAILED!  
客が死亡した

リゼ「よし、じゃあパキパキ・・・ラテアートやってみるか？」  
燃える喫茶店の店内でリゼはココアに言った。全身に炎を纏いなが  
ら。



ココア「ボオオオオオオオオ！らてあーと？ゴオオオ！」

ココアがケツから火を吹きながら言う。

ちなみにチノはさつきからワープしてしまつて何処にいるのか分からない。

リゼ「こんな感じで、パチパチ・・・コーヒーにパキパキ・・・ミルクで絵を描くんだよ」

リゼは燃える肉体をよそにコーヒーにミルクを注ぐ。

ボジュウウウウウツ・・・

MISSION FAILED!

ミルクが蒸発した

ココア「わあ、すごい！本当に上手だね！」

リゼのラテアートを見たココアは感嘆した。だがケツの炎は止まらない。

リゼ「そんなにパキパキパキ上手いかアッアッアッアッ！」業火に焼かれて赤くなって照れてるリゼかわいい

ココア「本当だよ！もつと見せて？」

リゼ「しようがないなあ・・・もう一回だけやるから、しっかり見てるよ?!」

リゼはもう一杯コーヒーを淹れて、ミルクを用意し、それをカップの中へ。

これから棒でミルクの形を整えるのだ。

リゼ「うおおおおおおおおお！」

すると棒だけが物凄い速さで動きだした！

ウアッアッアッアッアッアッ！

リゼは（物理的に）燃える身体に悶え苦しむので精一杯だ！

リゼ「できt

チ  
ノ  
が  
死  
亡  
し  
た

M  
I  
S  
S  
I  
O  
N

F  
A  
I  
L  
E  
D  
!